

哲学分野

現代科学・技術・芸術と
多元性の問題

研究班代表

伊藤 邦武

はじめに

伊藤 邦武

われわれの研究班は、現代文化の中核をなす科学・技術・芸術がはらんでいる非常に広範な多元的性格の具体的な姿を明るみに出し、それが人間の精神活動をいかに特徴づけるものかという哲学的考察を行おうとするものである。いいかえれば、人間の精神的活動の多元性という根本的ヴィジョンを、今日の科学・技術・芸術における最先端の問題意識のもとで洗いなおし、それによって哲学的反省の真に現代的な活性化を目指そうとするのである。以下に示される研究は、いずれもこのような観点からわれわれの班の研究会で発表され、そこでの活発な討議を生かすかたちで練りなおされたものに他ならない。

収録された論文は、時間の論理や反事実的条件文の論理という、厳密な意味での哲学的分析から、物理学と数学の密接な連携をめぐる歴史的な分析、古代演劇や現代アートとわれわれの創造的な知覚経験との結びつきをめぐる美学的考察、環境汚染や生物兵器の検証や対策にかかわる科学・技術・倫理の複合的問題の探求、そして宗教的経験の多元性をもつ今日的意味の考察まで、きわめて多岐にわたる領域を扱っている。これらの論文をつうじて、われわれの研究班の研究員全員が共有している現代哲学の活性化への意欲をくんでいただければ幸いである。